

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

十全化学株式会社 富山工場における A 重油
ボイラから都市ガスボイラへの更新による
CO2 排出削減事業

排出削減事業者名：十全化学株式会社 印

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社 印

その他関連事業者名： 印

申請日： 年 月 日

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	十全化学株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	十全化学株式会社 富山工場
住所	〒930-0806 富山県富山市木場町1番10号
排出削減事業共同実施者	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

十全化学株式会社 富山工場におけるA重油ボイラから都市ガスボイラへの更新によるCO2排出削減事業

2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへと設備更新することにより、高効率化を実現し、CO2削減を図ることを目的としている。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

- ①A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの変更
- ②高効率ボイラーへの更新

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

(個別項目の欄において具体的に記載すること。)

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2011年9月1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2018年 9月 30日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

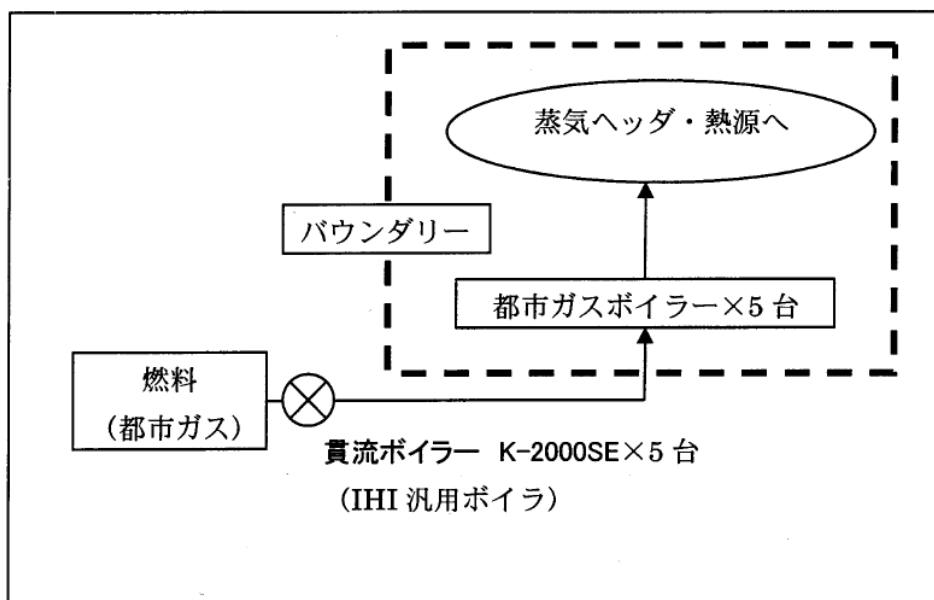
活動量、原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量、原単位は採用しない。

4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備



5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法 に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の使用量	千 Nm ³ /年	2013 年度：967.0 2014 年度：944.5 2015 年度：1,053.2 2016 年度：1,168.4 2017 年度：1,158.9 2018 年度：436.4	請求書の数値を集計し、標準状態に換算する(0.967を乗ずる)	変更なし
ϵ_{Pj}	事業実施後のボイラ効率	%	88.2	カタログ値(高位発熱量時)	変更なし
ϵ_{BL}	事業実施前のボイラ効率	%	90.3	カタログ値(高位発熱量時)	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/千 Nm ³	2013 年度～2014 年度：45.1 2015 年度～2016 年度：45.0 2017 年度～2018 年度：45.1	デフォルト値(都市ガス)	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013 年度～2018 年度：0.0708	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013 年度～2018 年度：0.0513	デフォルト値(都市ガス)	変更なし

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	967.0	45.1	0.0513	2,237.2
2014 年度	944.5	45.1	0.0513	2,185.2
2015 年度	1,053.2	45.0	0.0513	2,431.3
2016 年度	1,168.4	45.0	0.0513	2,697.2
2017 年度	1,158.9	45.1	0.0513	2,681.2
2018 年度	436.4	45.1	0.0513	1,009.7
単位	千 Nm3	GJ/千 Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				13,241.8

7.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	42,596.5	—	0.0708	3,015.8
2014 年度	41,606.1	—	0.0708	2,945.7
2015 年度	46,291.4	—	0.0708	3,277.4
2016 年度	51,354.9	—	0.0708	3,635.9
2017 年度	51,049.0	—	0.0708	3,614.3
2018 年度	19,223.9	—	0.0708	1,361.1
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				17,850.2

7.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EMBL</i>	17,850.2
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EMPJ</i>	13,241.8
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	4,608

8 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
A重油	6,495.9		6,495.9
都市ガス		6,650.6	- 6,650.6
購入電力			

省エネルギー量 (原油換算) = -154.7 kl

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)
バイオマス利用量	t	0	0	0
バイオマス熱利用量	GJ	0	0	0
太陽光発電量	kWh	0	0	0
温泉熱・温泉排熱利用量	GJ	0	0	0
バイオコークス利用量	t	0	0	0
太陽熱利用量	GJ	0	0	0
小水力発電量	kWh	0	0	0
雪氷融解水熱利用量	GJ	0	0	0
風力発電量	kWh	0	0	0
バイオディーゼル燃料使用量	kl	0	0	0